

## 2023年12月期 第2四半期 決算説明資料

2023年8月24日  
大倉工業株式会社



- 01. 第2四半期決算の概要
- 02. 2023年12月期業績予想
- 03. 中期経営計画（2024）の進捗
- 04. サステナビリティの推進
- 05. 参考資料



## 第2四半期決算の概要

1

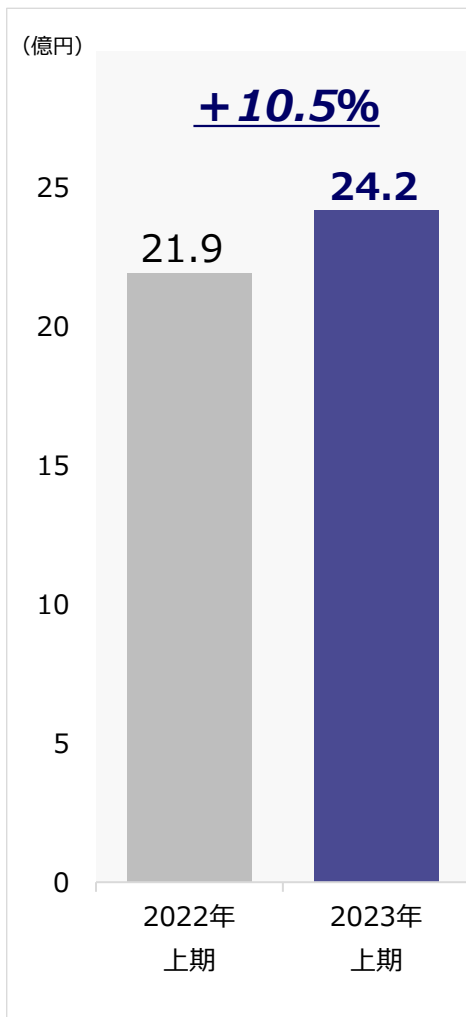
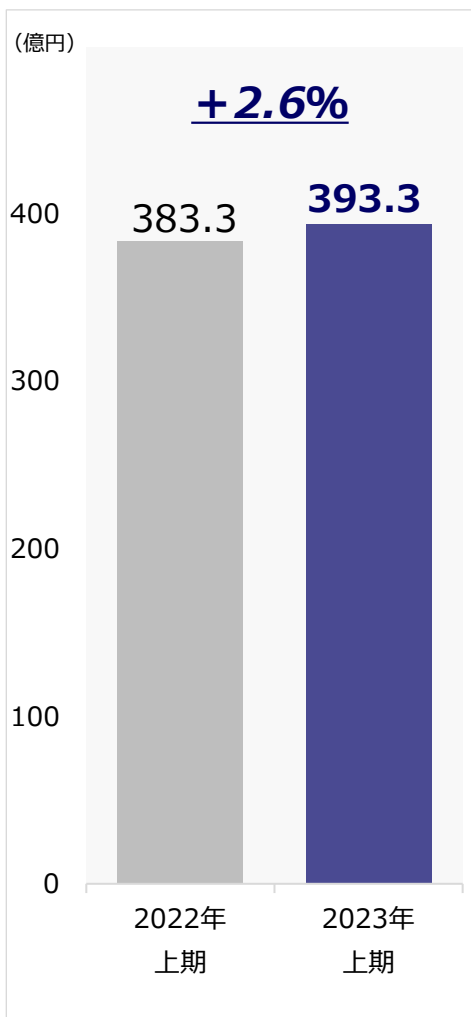
## 当期間における当社事業に関する市場動向

国内市場	2023年第2四半期の国産ナフサ価格は、67,500円/KLと同第1四半期比1,000円上昇 昨年から高騰した資源・原材料価格は落ち着くも、前同四半期比では約13%アップ
	国内市場では国内経済活動の正常化が進展していることや、インバウンド消費の増加により、外食及びサービス業の回復が見られるものの、物価上昇等による買い控えがあり、食品や日用品の需要は減少
	2023年6月の国内木材価格は、ピーク時（2021年8月）から20.4%減の15,200円/m <sup>3</sup> 2023年上期の新設住宅着工戸数は、前年比2.2%減の409,549戸
	経済活動の正常化、海外旅行客増加でホテル宿泊人数は、コロナ禍前の2019年の約9割超まで回復
海外市場	大型TV向けの偏光板需要が回復基調。中国偏光板メーカーの生産能力増強に伴い広幅化が進む
	世界のスマートフォン出荷台数は、2023年第1四半期が前年比14.6%減、第2四半期が前年比7.8%減となり、減少幅は縮小も回復は鈍い。半導体市場も低迷
	自動車産業の生産回復により関連需要が増加(国内外)

# 連結売上高、連結営業利益

【連結売上高】

【連結営業利益】

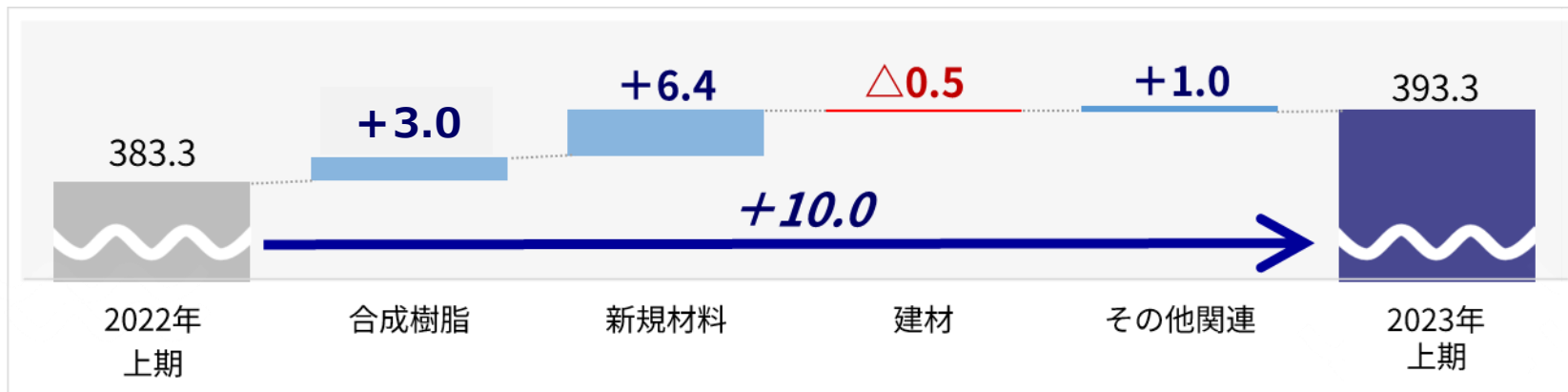


	需要増 ↑	需要減 ↓
合成樹脂業	環境貢献製品は堅調	食品向け、農業用途は苦戦 工業用途は在庫調整局面で低調
新規材料業	車載用途の機能性材料が好調 大型液晶パネル用途の需要回復	中小型パネル向けは在庫調整局面で減少
建事材業	パーティクルボードは堅調 水廻り・内装分野はマンション着工数増により堅調	プレカット事業は新設戸建住宅着工戸数減により苦戦
その他関連事業	ホテル事業の宿泊と宴会の需要が回復基調	

## セグメント別売上高、営業利益

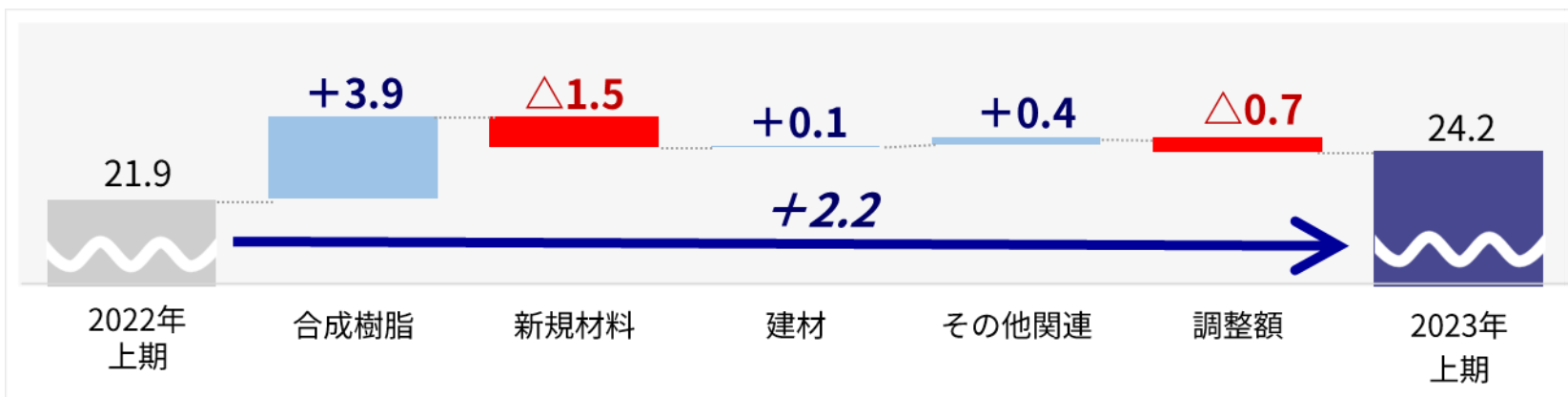
【連結売上高のセグメント別増減内訳】

(億円)



【連結営業利益のセグメント別増減内訳】

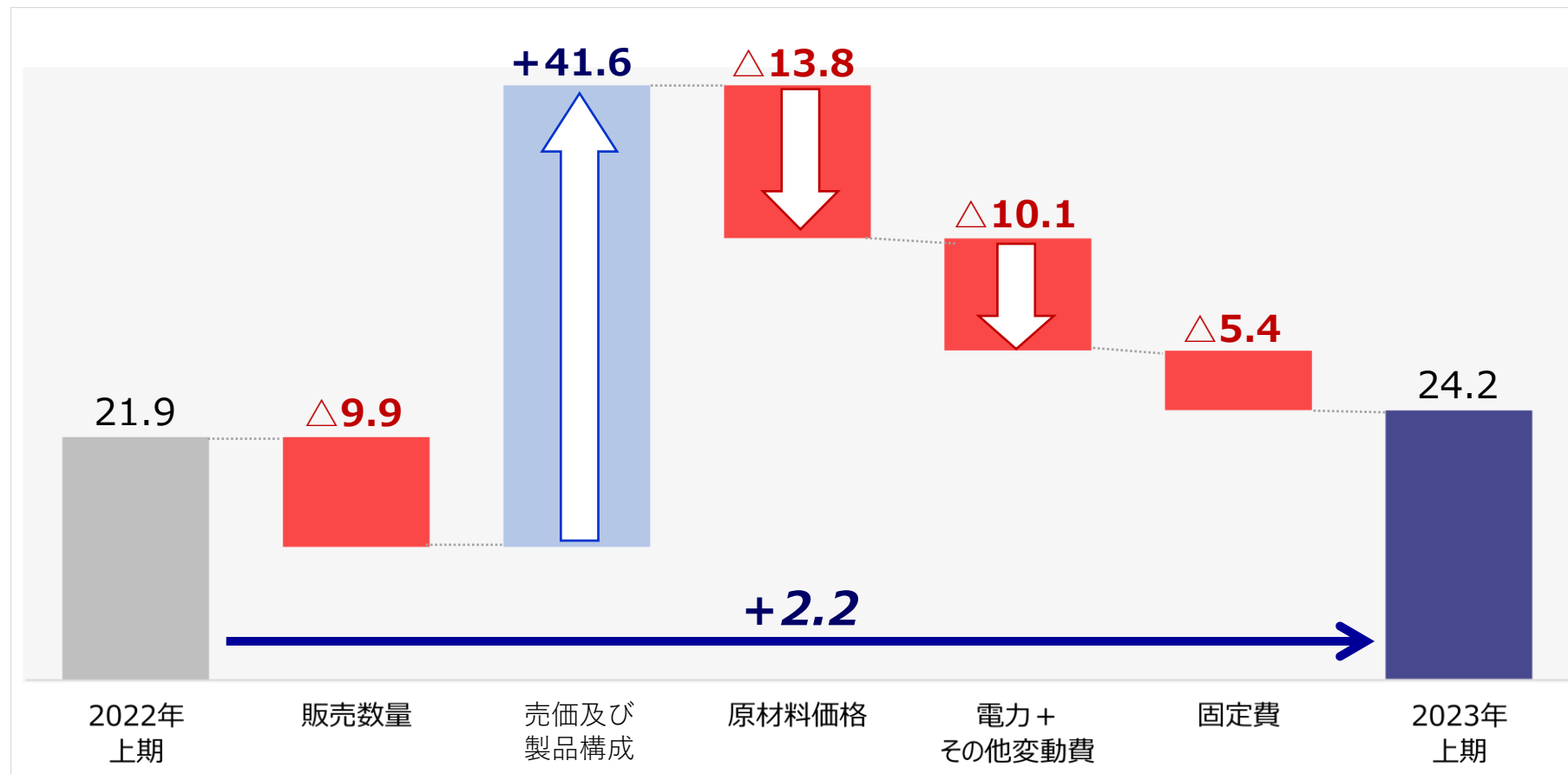
(億円)



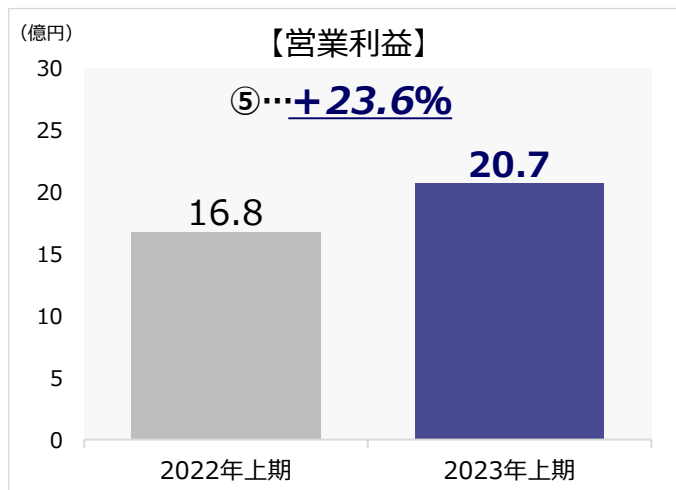
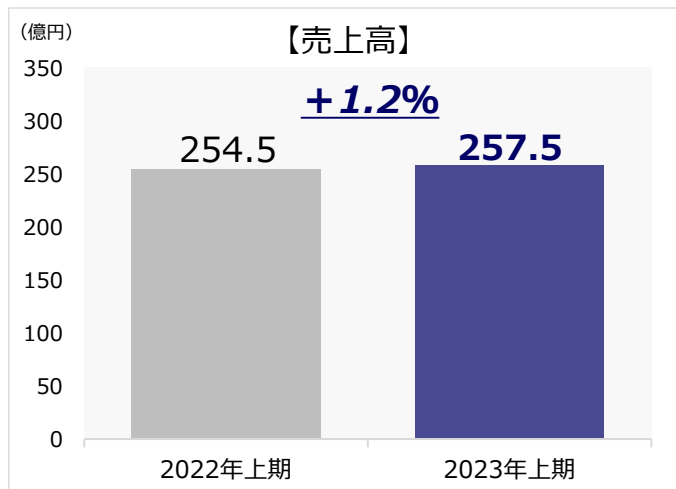
## 連結営業利益増減

### 【連結営業利益増減内訳】

(億円)



## 合成樹脂事業



【BU別売上高】	2023年上期 (百万円)	前年比
ライフ & パッケージ B U	8,949	①…△0.3%
シュリンクフィルム	4,760	+0.9%
軟 包 材	3,297	△3.3%
リキッドパック	891	+4.5%
プロセスマテリアル B U	3,032	②…△9.5%
ベーシックマテリアル B U	9,971	③…+7.3%
アグリマテリアル B U	3,153	④…△3.5%
そ の 他	651	+15.6%
合 計	25,759	+1.2%

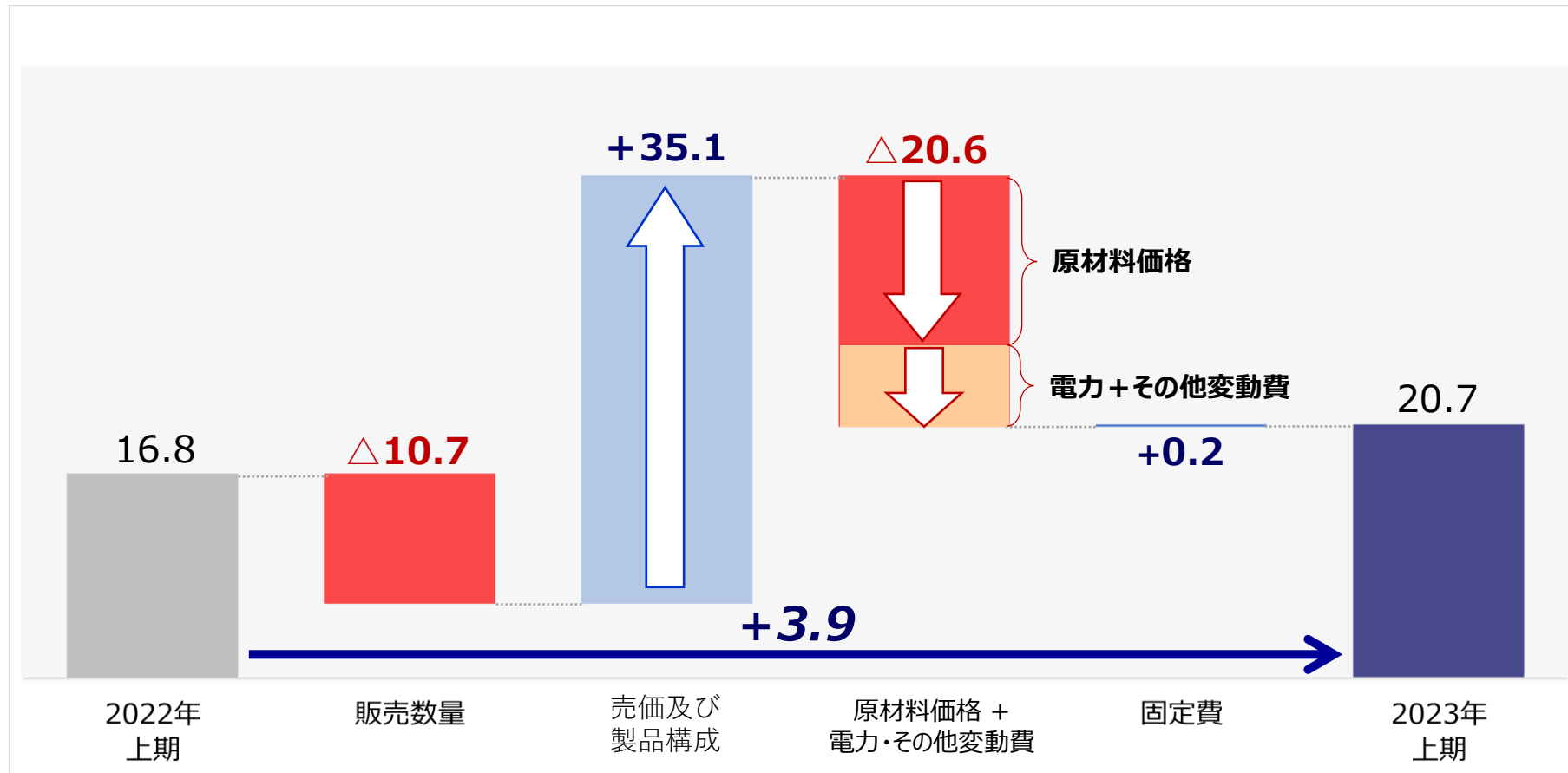
- ① 消費者の節約志向により食品関係、日用品関係のフィルムが減少
- ② 市況悪化による在庫調整影響で、電子材料用プロテクトフィルムが減少
- ③ 販売数量は減少したものの、製品価格転嫁が奏功し堅調に推移
- ④ 前年需要の反動や消費者の買い控え等により販売が減少
- ⑤ 販売価格の転嫁、生産性の向上によるコスト削減により増益



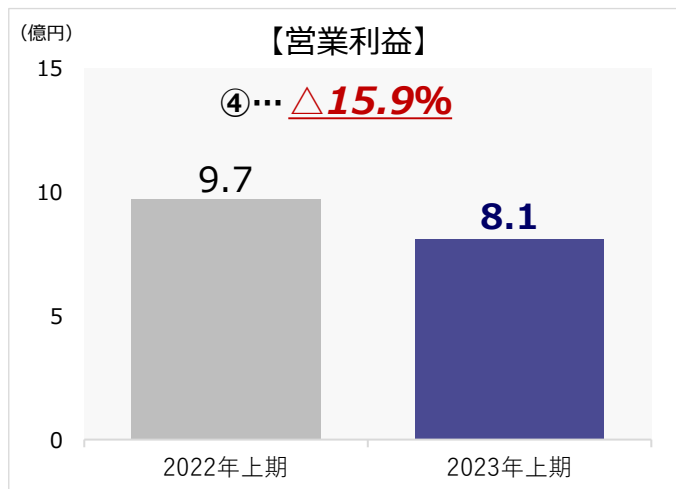
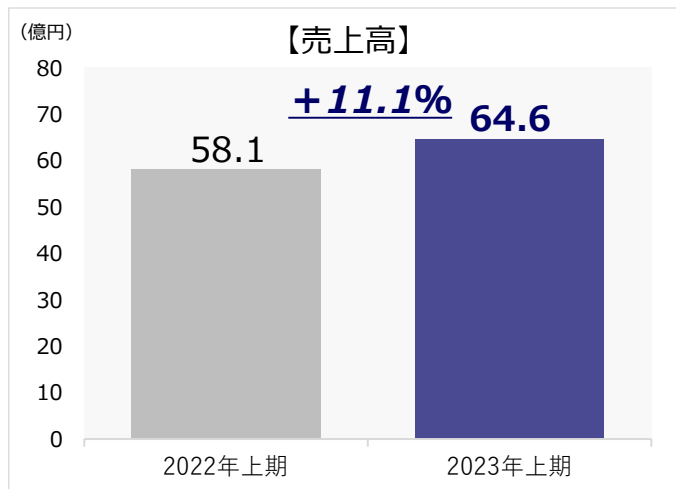
## 合成樹脂事業

## 【営業利益増減内訳】

(億円)



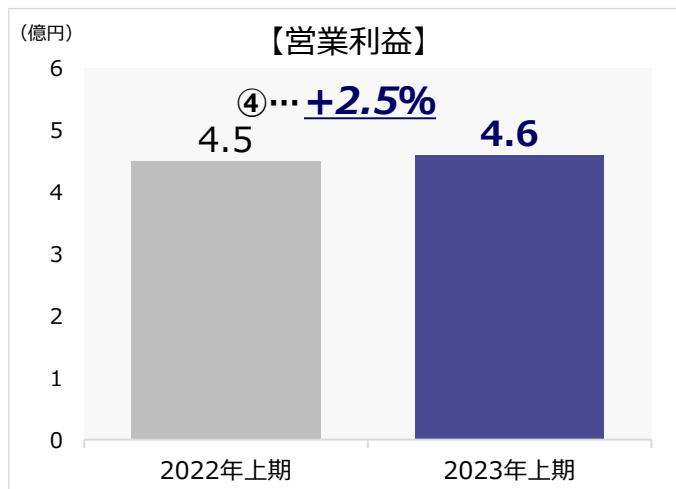
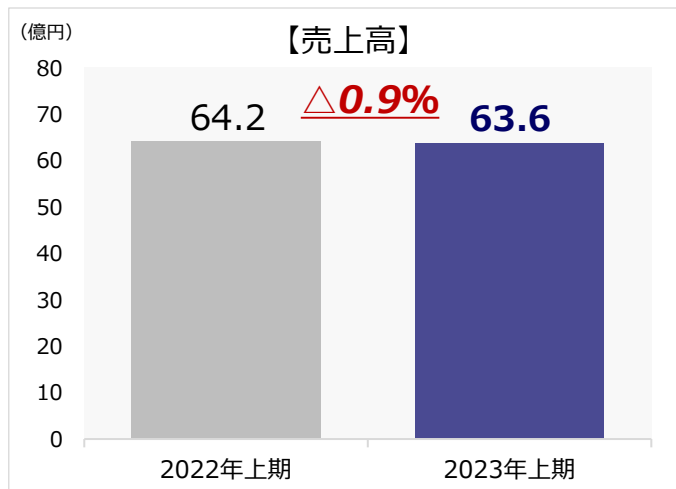
## 新規材料事業



【BU別売上高】	2023年上期 (百万円)	前年比
機能材料BU	1,682	①... +8.0%
電子材料BU	1,116	②... +2.6%
光学材料BU	3,629	③... +15.5%
商品他	31	+38.0%
合計	6,460	+11.1%

- ① 車載用途の機能性材料フィルム（ヘッドレスト用及びペイントプロテクションフィルム）の販売が好調に推移
- ② スマホ・タブレット等の中小型パネル向けが苦戦も、車載用途を中心に精密塗工事業の加工数量が増加
- ③ 大型液晶パネル向け光学フィルムの在庫調整が一段落し、需要が回復
- ④ 歩留り改善に注力し、生産性の向上に取り組んだものの、電力・光熱費用の増加及び中小型パネル向け製品の販売量減少等の製品構成により減益

## 建材事業



【製品別売上高】	2023年上期 (百万円)	前年比
パーティクルボード製品	3,853	①… +9.1%
環境資材製品	386	②…△13.0%
住宅部材製品	211	+34.3%
ハウス事業	591	+7.0%
プレカット事業	1,461	③…△21.1%
消去・組替	△137	-
合計	6,367	△0.9%

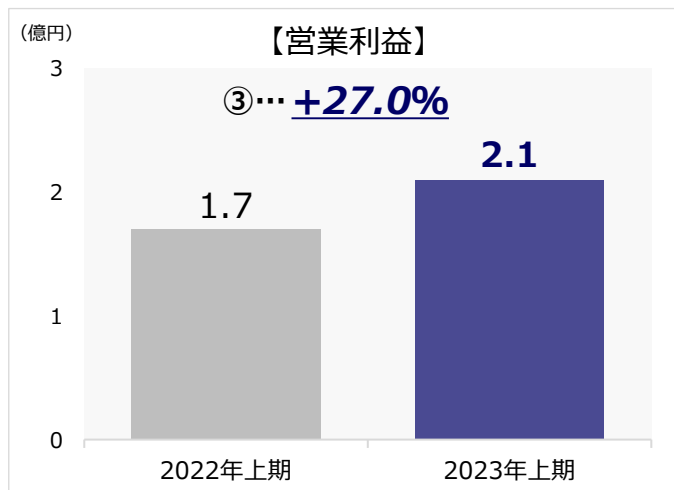
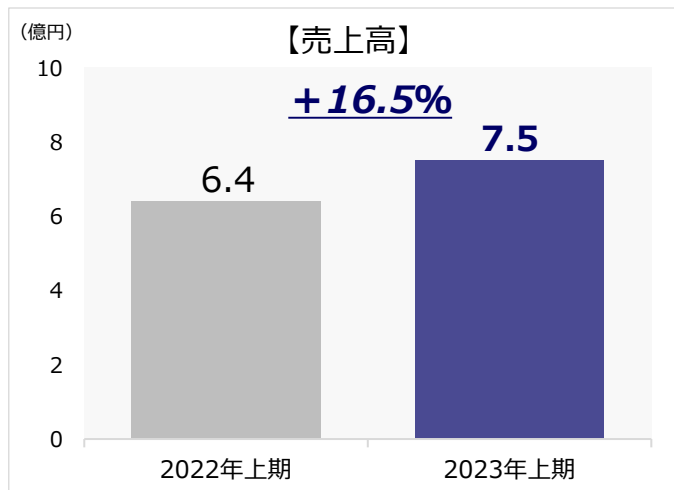
① キッチン、洗面台等の内装用の加工ボードの拡販で売上増

② コンパネの価格の下落と建築需要の低下を受け、省施工パネル及び環境貢献型枠「木守®」の販売が低調

③ 木材価格の下落により、売上高が減少

④ パーティクルボードの安定生産を継続したことや製品価格の修正を推進したことにより増益

## その他関連事業



【事業別売上高】	2023年上期 (百万円)	前年比
ホテル事業	379	①…+80.0%
情報処理事業	694	②…△1.2%
賃貸事業	275	△18.6%
消去・組替	△599	—
合計	751	+16.5%

- ① 新型コロナウイルスによる行動制限の緩和により、宿泊や宴会が一部回復
- ② 錠剤鑑査システムの販売が減少と一包化鑑査システムの開発遅延により減収
- ③ 売上高の増加と固定費の削減等により増益

## 連結損益計算書

(億円)

	2022年上期	2023年上期	増減額	主な内訳
売上高	383.3	<b>393.3</b>	+10.0	
営業利益	21.9	<b>24.2</b>	+2.2	
営業外収益	3.9	<b>3.3</b>	△0.5	
営業外費用	0.4	<b>0.4</b>	△0.0	
経常利益	25.4	<b>27.1</b>	+1.7	
特別利益	0.0	<b>4.2</b>	+4.2	【当期】投資有価証券売却益：4.2
特別損失	0.2	<b>0.9</b>	+0.7	
税金等調整前 四半期純利益	25.2	<b>30.4</b>	+5.2	
法人税等	6.9	<b>7.4</b>	+0.5	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	18.3	<b>23.0</b>	+4.7	

## 連結貸借対照表

(億円)

		2022年 期 末	2023年 第2四半期末	増減額	主な内訳
資産の部	流動資産	506.4	<b>497.4</b>	△8.9	有形固定資産：+23.4 売上債権：△17.8
	固定資産	395.9	<b>439.6</b>	+43.7	投資有価証券：+15.5
	<b>資産合計</b>	902.3	<b>937.0</b>		
負債の部	流動負債	295.0	<b>303.4</b>	+8.3	未払金：+12.6 仕入債務：△8.6
	固定負債	51.3	<b>53.5</b>	+2.2	その他流動負債：+5.6
	<b>負債合計</b>	346.4	<b>356.9</b>		
純資産の部	<b>純資産合計</b>	555.9	<b>580.0</b>	+24.1	利益剰余金：+12.8 有価証券評価差額金：+10.8
(自己資本比率)		(61.6%)	<b>(61.9%)</b>		
借入金残高		23.7	<b>20.9</b>	△2.7	

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(億円)

	2022年	2022年 上期	2023年 上期	
現金及び現金同等物 期首残高	97.6	97.6	<b>84.4</b>	
営業活動による キャッシュ・フロー	37.0	20.4	<b>52.0</b>	税金等調整前四半期純利益：+30.4億円 減価償却費：+19.7億円 売上債権の減少：+17.9億円
投資活動による キャッシュ・フロー	△33.1	△26.6	△ <b>30.1</b>	新規材料事業における工場及び製造装置等の有形固定資産の取得
財務活動による キャッシュ・フロー	△17.7	△14.6	△ <b>12.9</b>	配当金の支払：△10.0億円 借入金の返済：△2.8億円
現金及び現金同等物 期末残高	84.4	78.4	<b>93.9</b>	

# 2023年12月期 業績予想

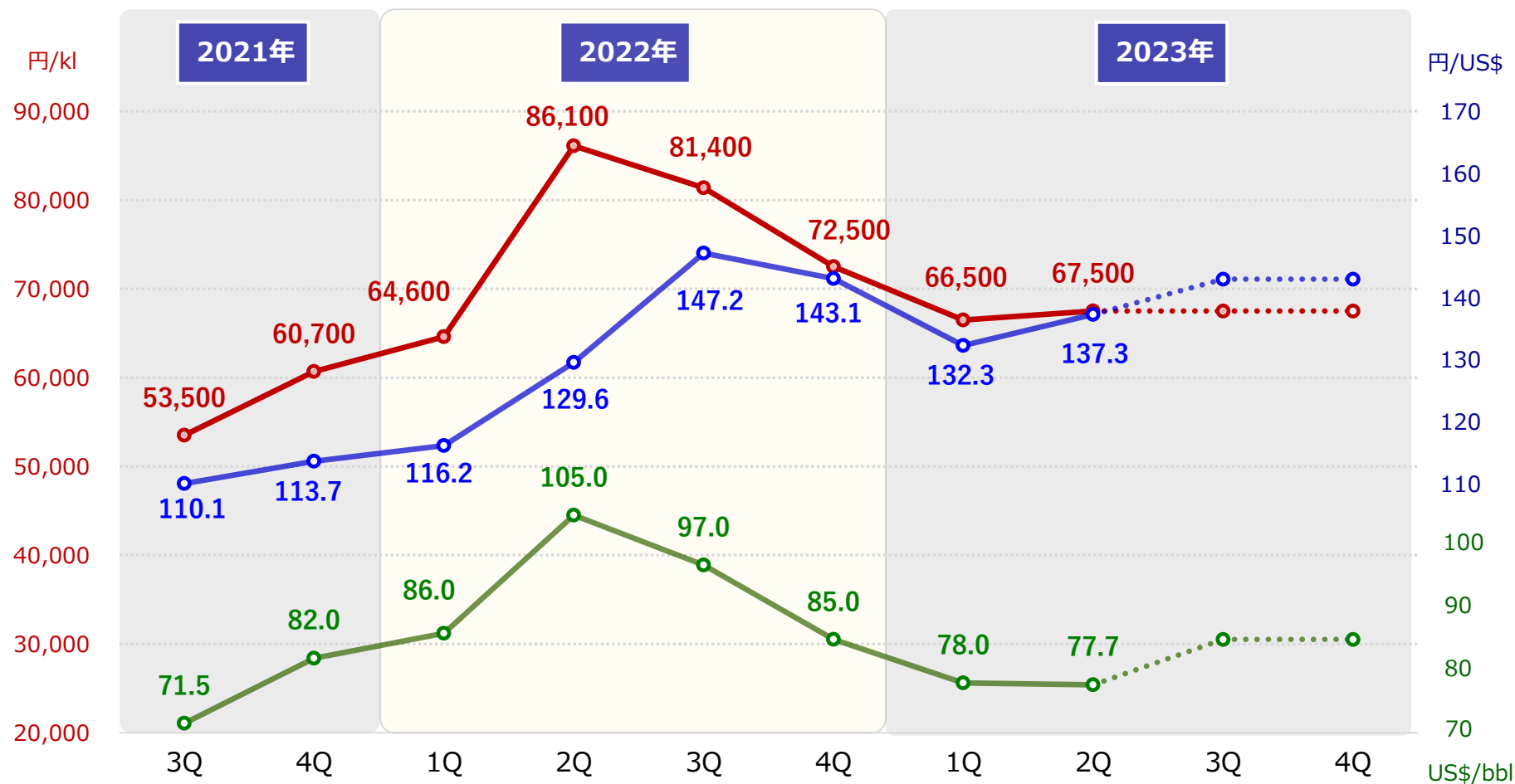
2

夢がある。技術がある。未<sub>レ</sub>来<sub>レ</sub>ができる。



## 国産ナフサ価格、ドバイ原油価格及び為替の動向

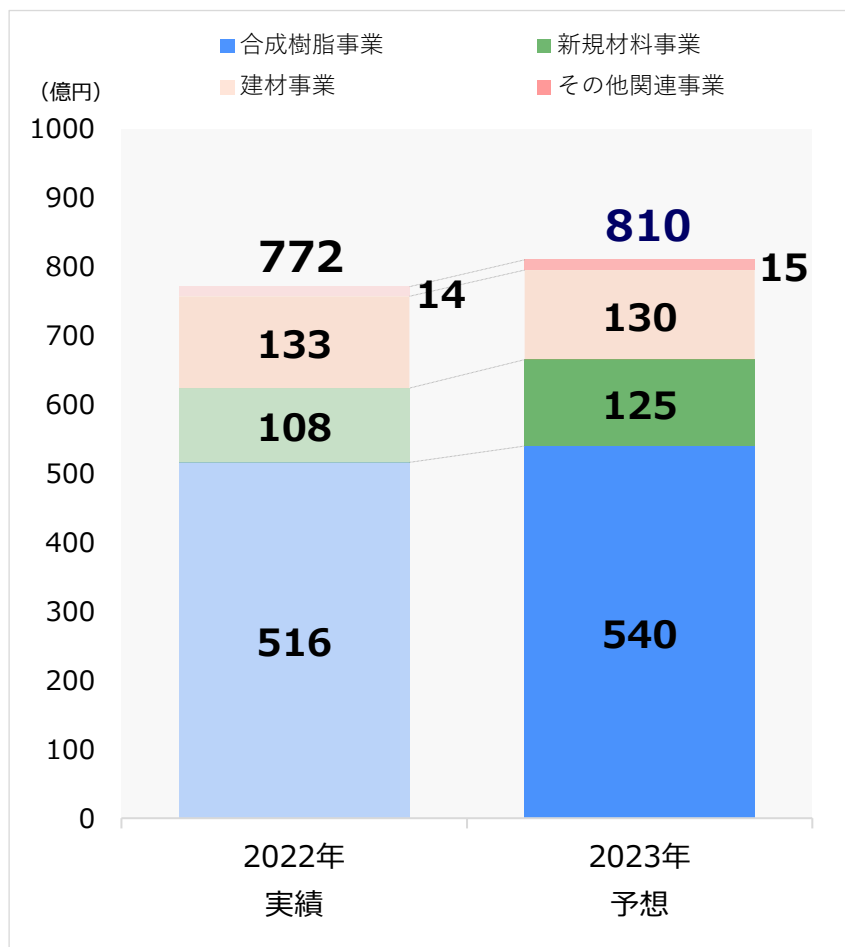
左軸(赤線)：ナフサ価格(円/KL) 右軸(緑線)：ドバイ原油価格(US\$/bbl) 右軸(青線)：為替(円/US\$)



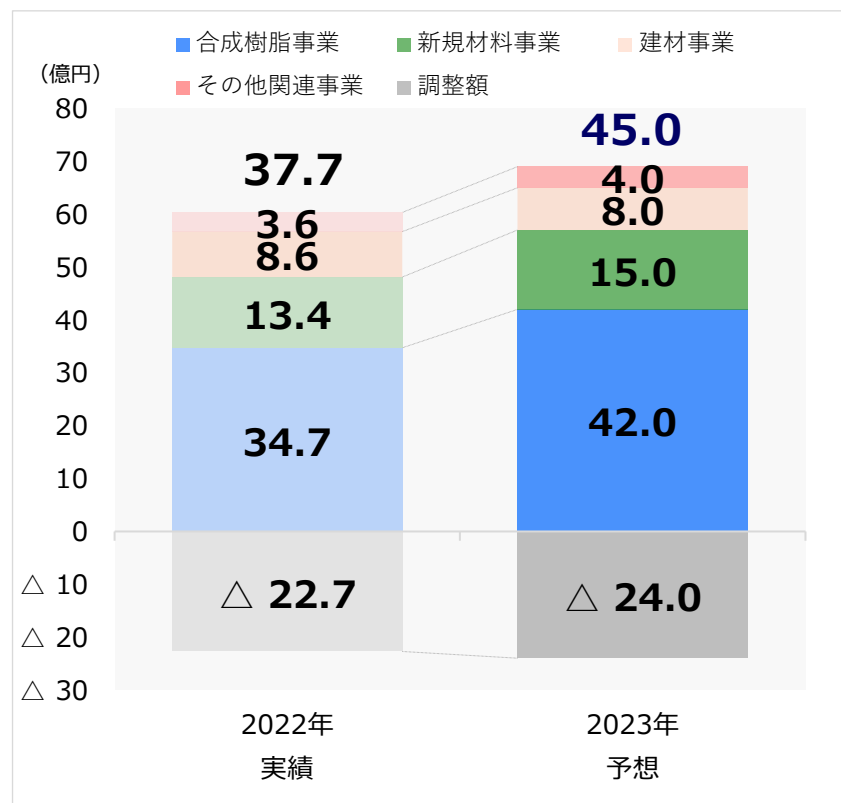
※折れ線グラフ中の点線の値は当社予想値です

# 業績予想・セグメント別売上高、営業利益

【連結売上高】



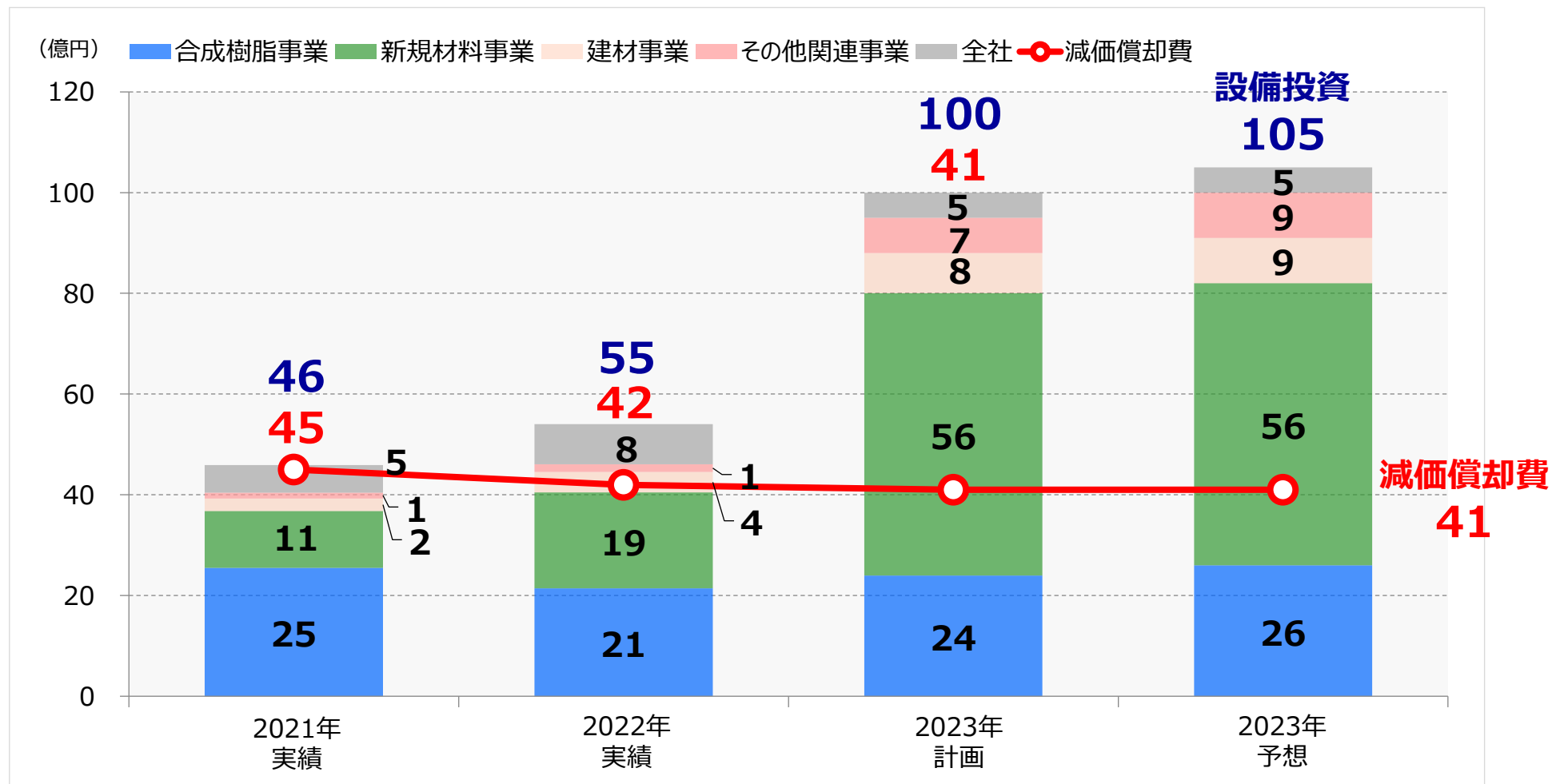
【連結営業利益】



(億円)	2022年実績	2023年予想	前年比
<b>経常利益</b>	<b>42.7</b>	<b>48.0</b>	+12.3%
親会社株主に帰属する <b>当期純利益</b>	<b>37.8</b>	<b>35.0</b>	△7.6%

※従業員持株会を通じた株式付与として、特別奨励金2億9千3百万円を第3四半期会計期間の費用として計上しております

## 設備投資（工事ベース）及び減価償却費



※2021年まで「その他関連事業」に集約していた住宅事業、木材加工事業の投資金額を2022年より「建材事業」に含めております

## 2023年業績予想 セグメント別

【連結売上高】

(億円)

	2022年実績	2023年予想	前年比
合成樹脂事業	516.1	<b>540.0</b>	+4.6%
新規材料事業	108.5	<b>125.0</b>	+15.2%
建材事業	133.4	<b>130.0</b>	△2.6%
その他関連事業	14.5	<b>15.0</b>	+3.2%
合計	772.6	<b>810.0</b>	+4.8%

【連結営業利益】

(億円)

	2022年実績	2023年予想	前年比
合成樹脂事業	34.7	<b>42.0</b>	+20.8%
新規材料事業	13.4	<b>15.0</b>	+11.7%
建材事業	8.6	<b>8.0</b>	△7.2%
その他関連事業	3.6	<b>4.0</b>	+9.4%
調整額	△22.7	△ <b>24.0</b>	—
合計	37.7	<b>45.0</b>	+19.3%

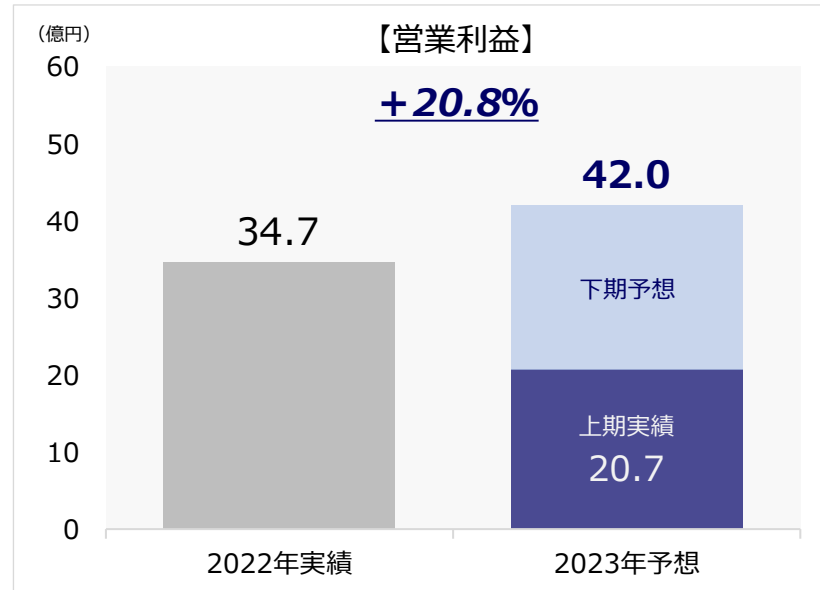
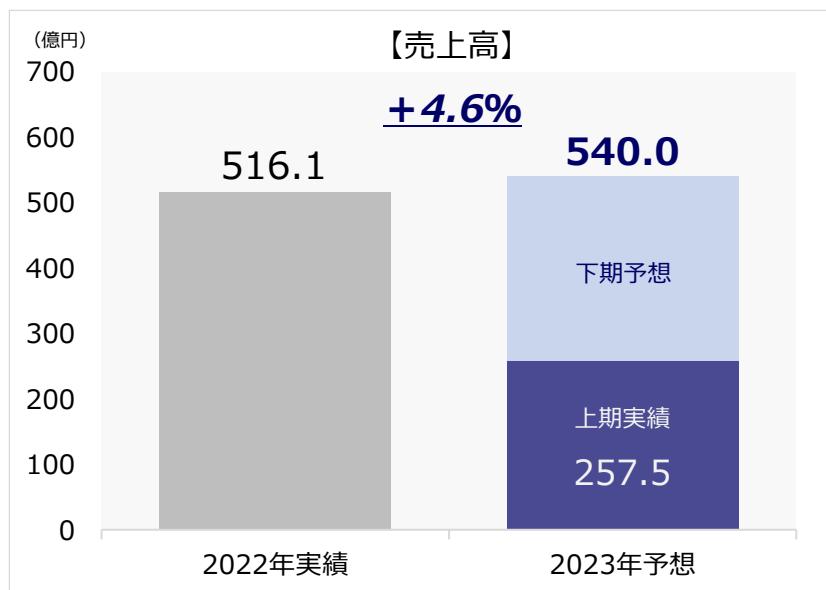
## 合成樹脂事業 今期の取組み

### 今期の課題

1. プロセス機能材料の拡販・開発
2. 環境貢献製品（Caerula®）の拡大（バイオ、生分解、リサイクル、薄膜品など）
3. コスト上昇に対する製品価格転嫁を継続

### 重点取組み

- 自動車関連の天井材、塗装マスキングフィルムとEV電池用タブテープ及び環境貢献製品の拡販
- 利益率が低く成長が漸減している分野は再構築
- 電力料などのユーティリティコストや物流コストの大幅な価格上昇分の製品価格転嫁に注力



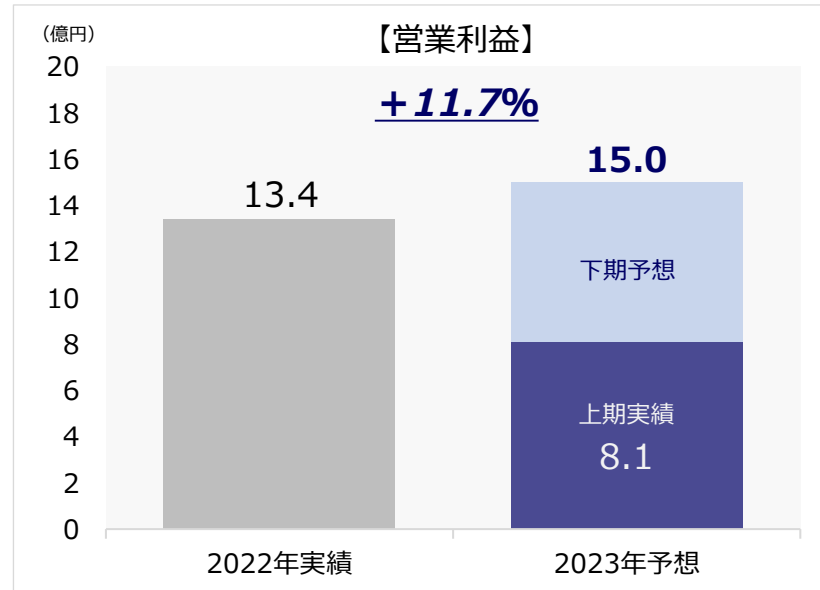
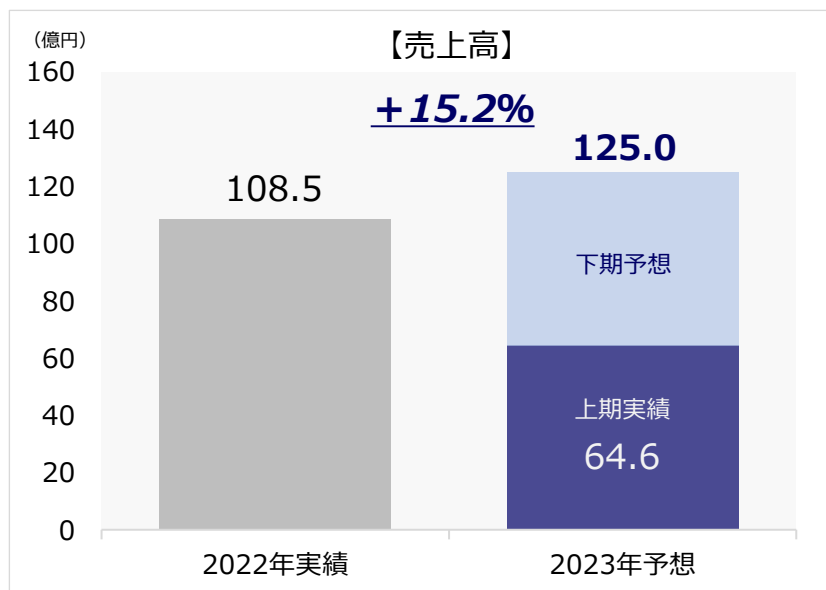
## 新規材料事業 今期の取組み

### 今期の課題

1. 仲南地区新工場（H棟）での広幅光学フィルム製造装置（G2ライン）の年内稼働
2. 海外子会社（オークラベトナム）の設立

### 重点取組み

- 大型液晶パネル向け広幅光学フィルム（2,500mm）の拡販。G2ラインは今年12月から量産開始
- 機能材料BUの自動車材料製品の拡販
- オークラベトナムは計画通り建屋建設開始



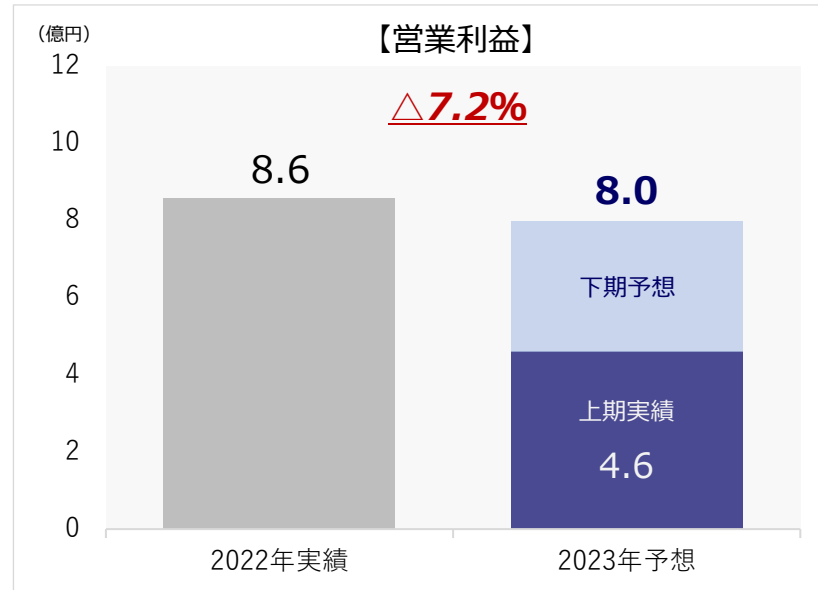
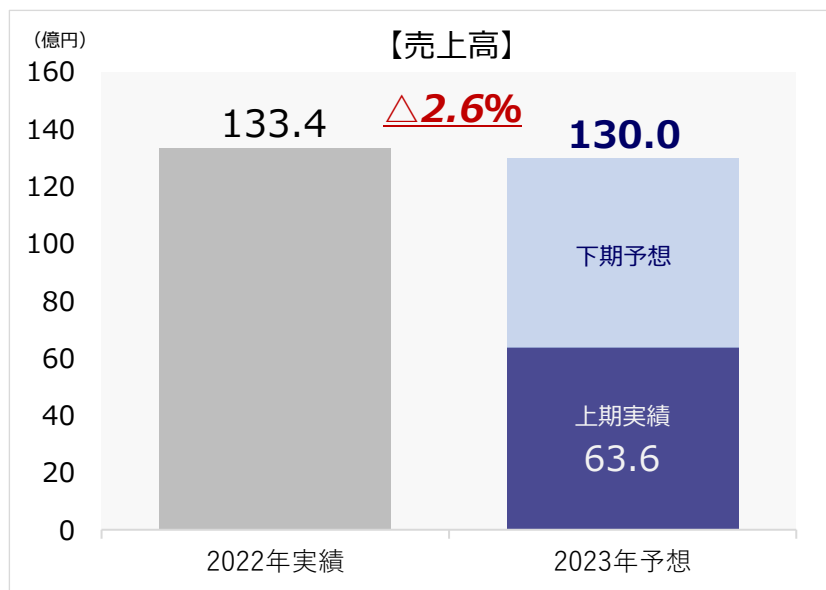
## 建材事業 今期の取組み

### 今期の課題

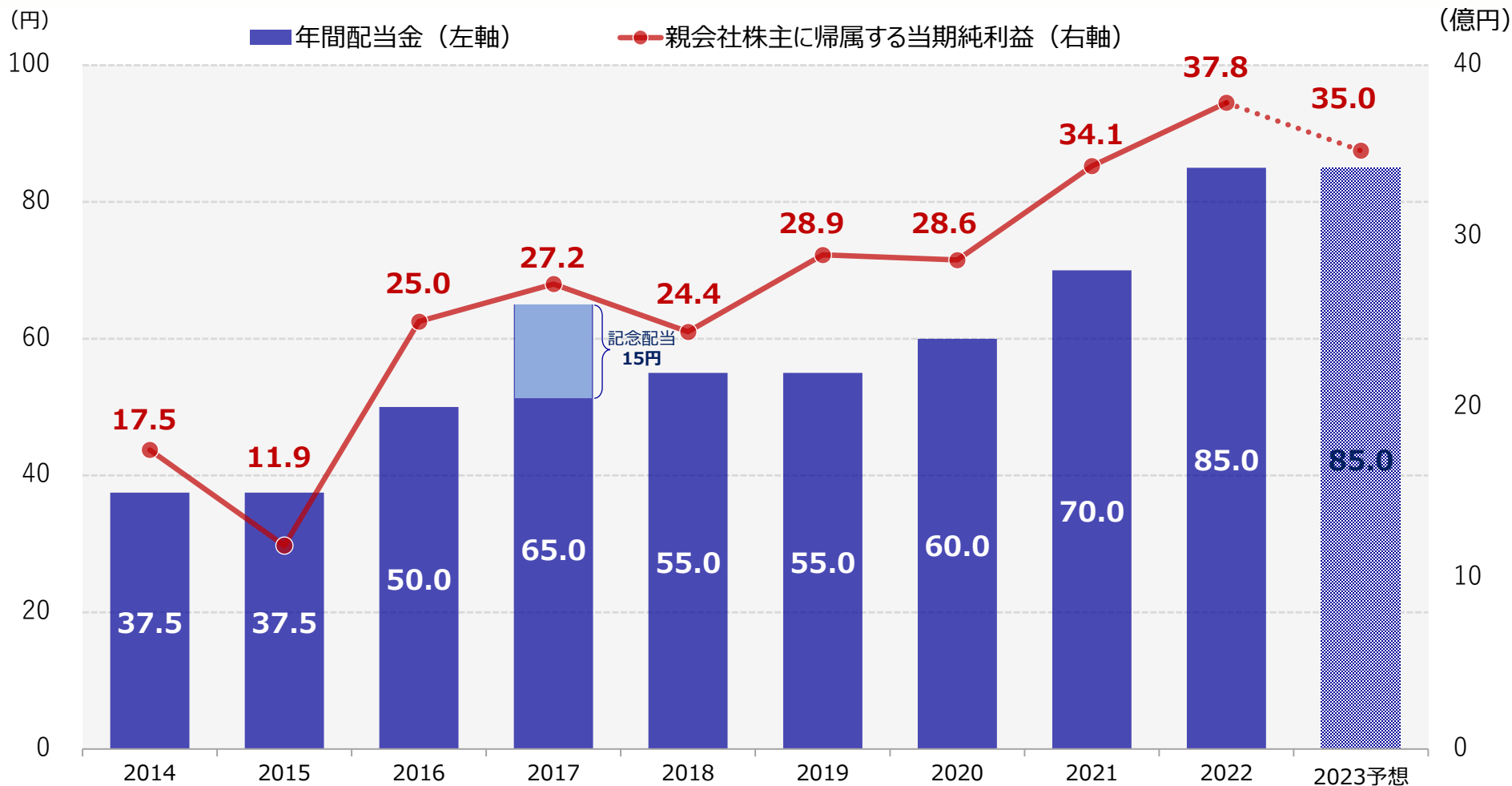
1. 加工ボードの拡販
2. 環境貢献型枠「木守®」の拡販
3. プレカットの非住宅分野への拡大
4. 省施工パネルの拡販

### 重点取組み

- ダイニングキッチン、洗面用途を中心とした加工ボードの拡販
- 環境貢献型枠「木守®」はゼネコン・デベロッパーへの認定取得を目標に拡販中
- プレカットは商業ビル、公共施設、小売り店舗等の非住宅物件をターゲットに拡販



# 株主還元



配当性向	25.4%	37.5%	23.8%	28.5%	26.8%	22.6%	25.0%	24.4%	26.8%	29.0%
------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------



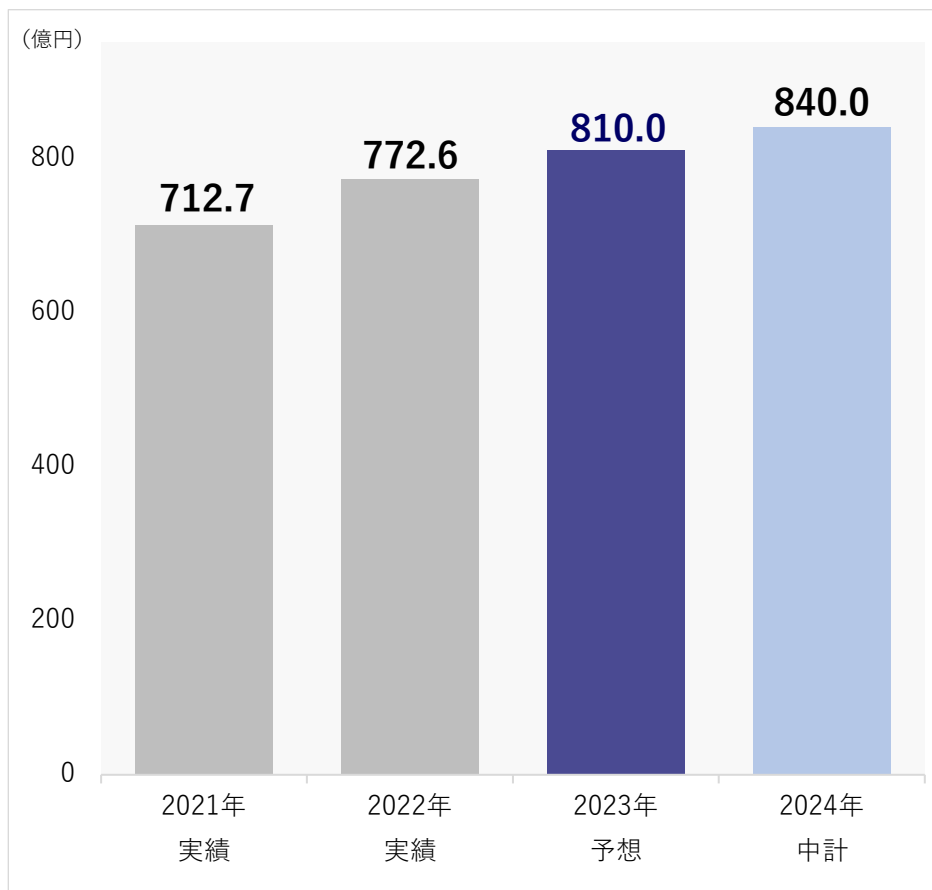
## 中期経営計画（2024）の進捗

3

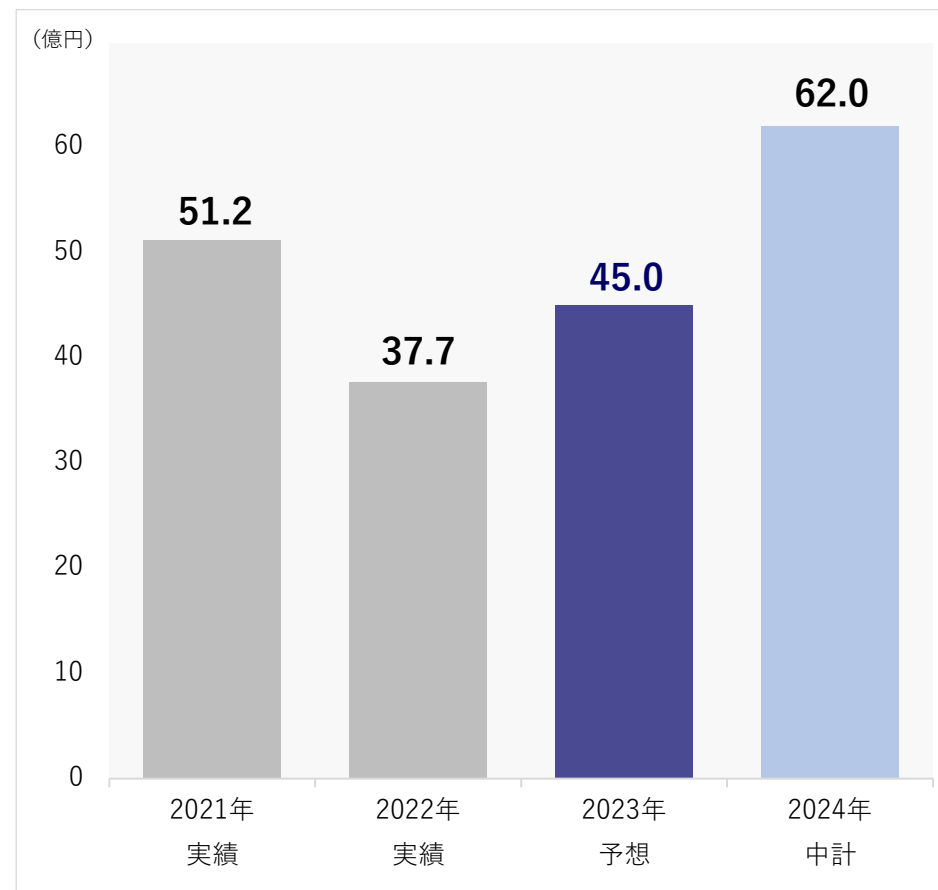
夢がある。技術がある。未<sub>レ</sub>来<sub>レ</sub>ができる。

## 中期経営計画（2024） 連結売上高、連結営業利益進捗状況

【連結売上高】

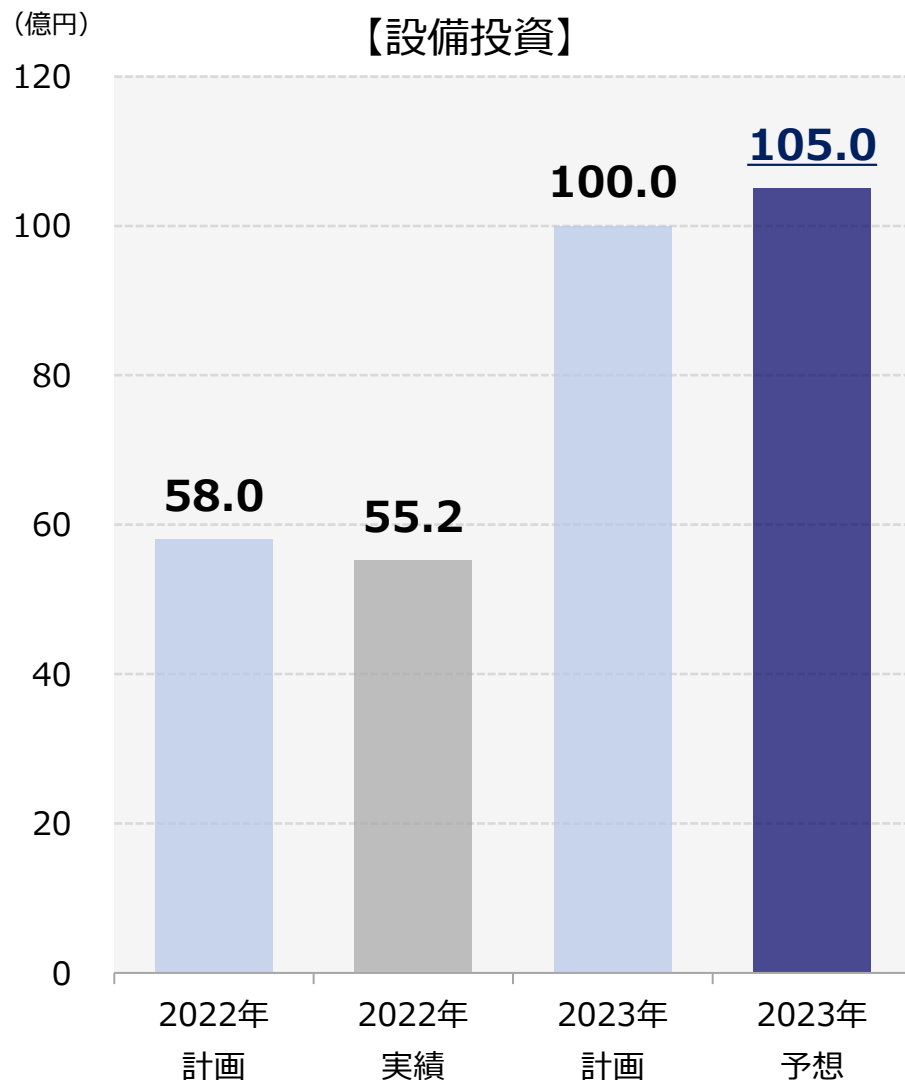


【連結営業利益】



**2024年の営業利益目標62億円に向け、「自動車、電子材料関連の付加価値製品の拡販」、「設備投資案件の早期実績化」に注力**

## 中期経営計画（2024）設備投資（工事ベース）進捗状況



【2023年計画の主な設備投資案件】 (億円)

案件	2023年 計上額	投資総額
広幅光学フィルム製造装置 (G2ライン)	50.7	61.4
オークラベトナム	2.9	17.5
埼玉オークラ アグリ多層機	4.5	5.3
合成樹脂事業部 7種7層機	2.8	5.0

**中期経営計画（2024）の  
投資計画250億円達成に向け、  
成長投資、戦略投資を中心に  
計画通り実行中**

# サステナビリティの推進

4

夢がある。技術がある。未<sub>レ</sub>来<sub>ク</sub>ができる。

# 当社のサステナビリティ

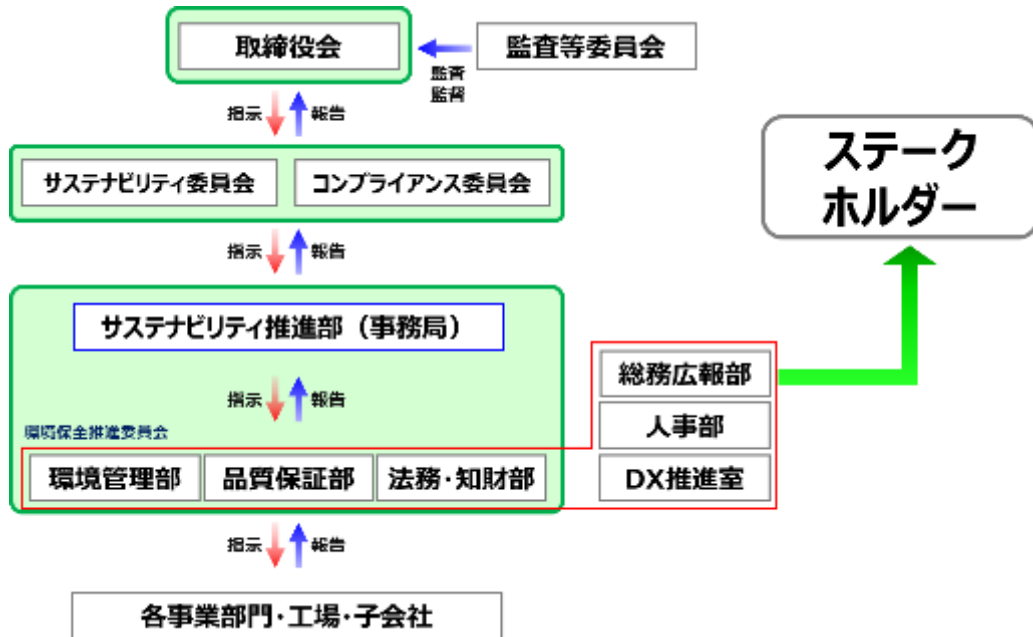
## サステナビリティ基本方針

「社会から信頼される企業」であり続けるために、事業を通じて、社会との共生を念頭に企業の成長を目指す

## サステナビリティ基本原則

1. 事業とESGの両立
2. 地球環境の保全
3. 法令順守・人権尊重と労働環境の配慮
4. 情報開示と対話

## サステナビリティ推進体制



# サステナビリティの推進【E：環境】

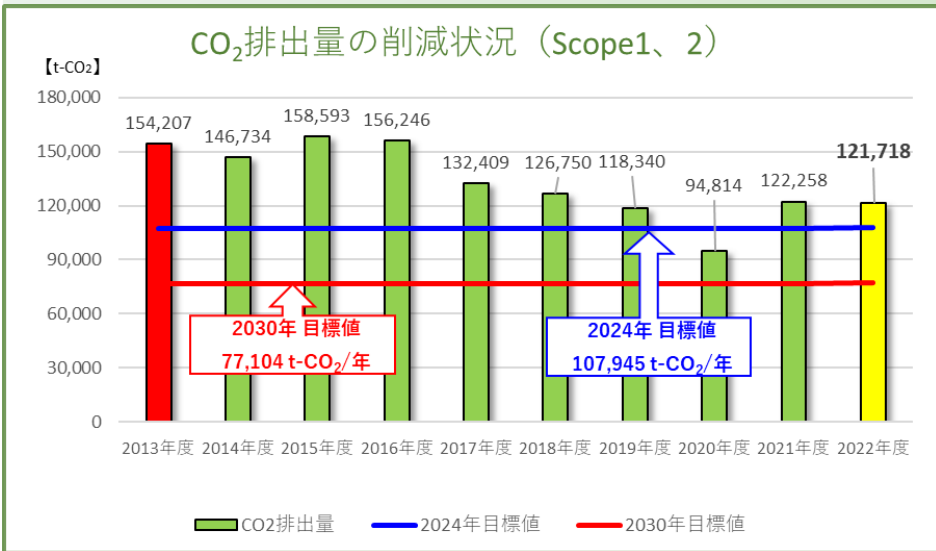
**Environment : 環境**

**2024年目標**  
 CO<sub>2</sub>排出量：30%以上削減  
 生活サポート群環境貢献製品売上高比率：50%以上



## 脱炭素経営(気候変動対策)の推進

### CO<sub>2</sub>排出量推移状況



2022年度CO<sub>2</sub>排出量  
 対基準年度(2013年)比 ▲21%

### 太陽光発電導入状況

拠点	太陽光発電電力 (MWh/年)	稼働開始
本社	1,882	23年5月一部稼働
KSオークラ	476	23年2月稼働
九州オークラ	1,180	23年7月稼働
詫間工場	2,638	24年1Q
仲南工場	1,900	24年3Q
第四工場	3,702	25年1Q

CO<sub>2</sub>削減量  
 約6,000 t-CO<sub>2</sub>/年

## サステナビリティの推進【E：環境】

Environment : 環境

2024年目標

CO<sub>2</sub>排出量：30%以上削減

生活サポート群環境貢献製品売上高比率：50%以上



### 脱炭素経営(気候変動対策)の推進

	対応状況	
経済産業省GXリーグ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GXリーグ基本構想への賛同（2023年1月）</li> <li>・GXリーグに参画（2023年4月）</li> <li>・「自主目標・基準年度・基準年度排出量」等の登録の対応（2023年9月）</li> </ul>	
気候変動イニシアティブ (JCI)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JCIに参加およびJCIメッセージへの賛同（2023年4月）</li> </ul>	
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度かがわ脱炭素取組優秀賞の受賞（2023年4月）</li> </ul>	

# サステナビリティの推進【E：環境】

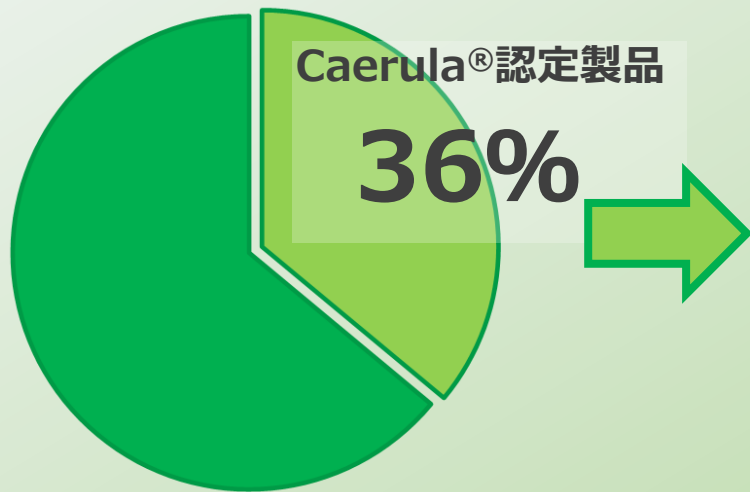
**Environment : 環境**

**2024年目標**  
 CO<sub>2</sub>排出量：30%以上削減  
 生活サポート群環境貢献製品売上高比率：50%以上

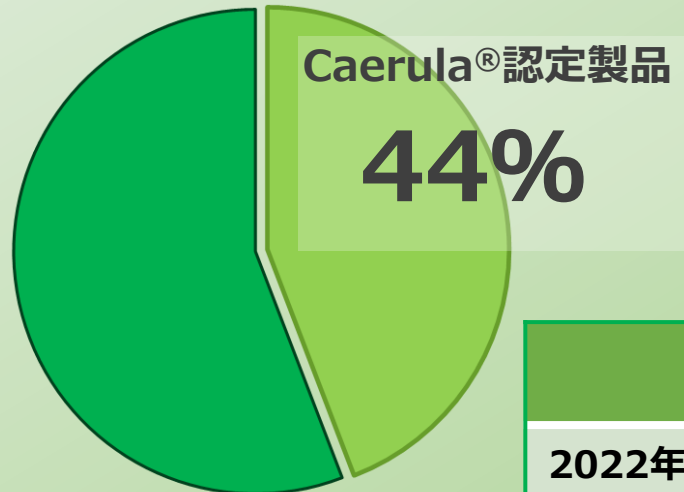


**環境貢献製品の創出と拡大**

2022年実績



2023年第2四半期実績



**2023年度取組目標 45%以上**

	売上高
2022年通期	約219億円
2023年上期	約134億円



# サステナビリティの推進【E：環境】

**Environment : 環境**

**2024年目標**  
 CO<sub>2</sub>排出量：30%以上削減  
 生活サポート群環境貢献製品売上高比率：50%以上



**環境貢献製品の創出と拡大**

■ 環境貢献製品「Caerula®（カエルラ）」



【選定理由（一部）】

- ユニバーサルデザイン
- エネルギー削減
- 再生原料使用
- バイオマス原料、バイオマスインキ使用
- 資源削減（薄膜化）



○点字、点字風エンボス加工ゴミ袋



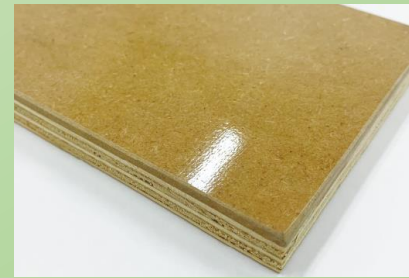
リサイクルPP化粧フィルム



Endo barrier®



エコカルマルチ®



木守®

# サステナビリティの推進【S：社会】

## Social：社会

**2030**  
 ダイバーシティ経営の実現  
 積極的に地域社会活動・イベントへ参加する文化の構築  
 新しい顧客価値の創出  
 ビジネスモデルの転換



### ダイバーシティ

### 女性活躍社会環境構築の推進

	2022年	2023年
女性社員構成比	16.0%	17.1% ↑
女性役職者構成比	11.0%	11.3% ↑
新卒女性比率	25.9%	38.4% ↑
障がい者雇用率	2.4%	2.6% ↑

### 健康経営

□「健康経営優良法人2023」に認定

## S：社会WGの定期開催

→ 女性分科会の定期開催

- 問題点の洗い出し
- 育児改正法勉強会
- 意識改革調査



# サステナビリティの推進【S：社会】

Social : 社会

2030

ダイバーシティ経営の実現  
積極的に地域社会活動・イベントへ参加する文化の構築  
新しい顧客価値の創出  
ビジネスモデルの転換



人的資本の強化

管理職

監督職

選抜

マネジメント

評価者研修(2023年8月~11月)

コーチング研修(2023年6月~24年4月)

ラインケア研修(2024年5月~7月)

マネジメント研修(2024年7月~8月)

異業種交流研修(2023年5月、7月、11月)

官民交流  
(2023年8月~25年7月)

リカレント研修  
(2023年5月~7月)

香川大学大学院(MBA)

女性活躍研修(2023年11月)

語学研修(英語/中国語)(2024年1月~)

ダイバーシティ

## 本資料に関する注意事項

# ご清聴ありがとうございました

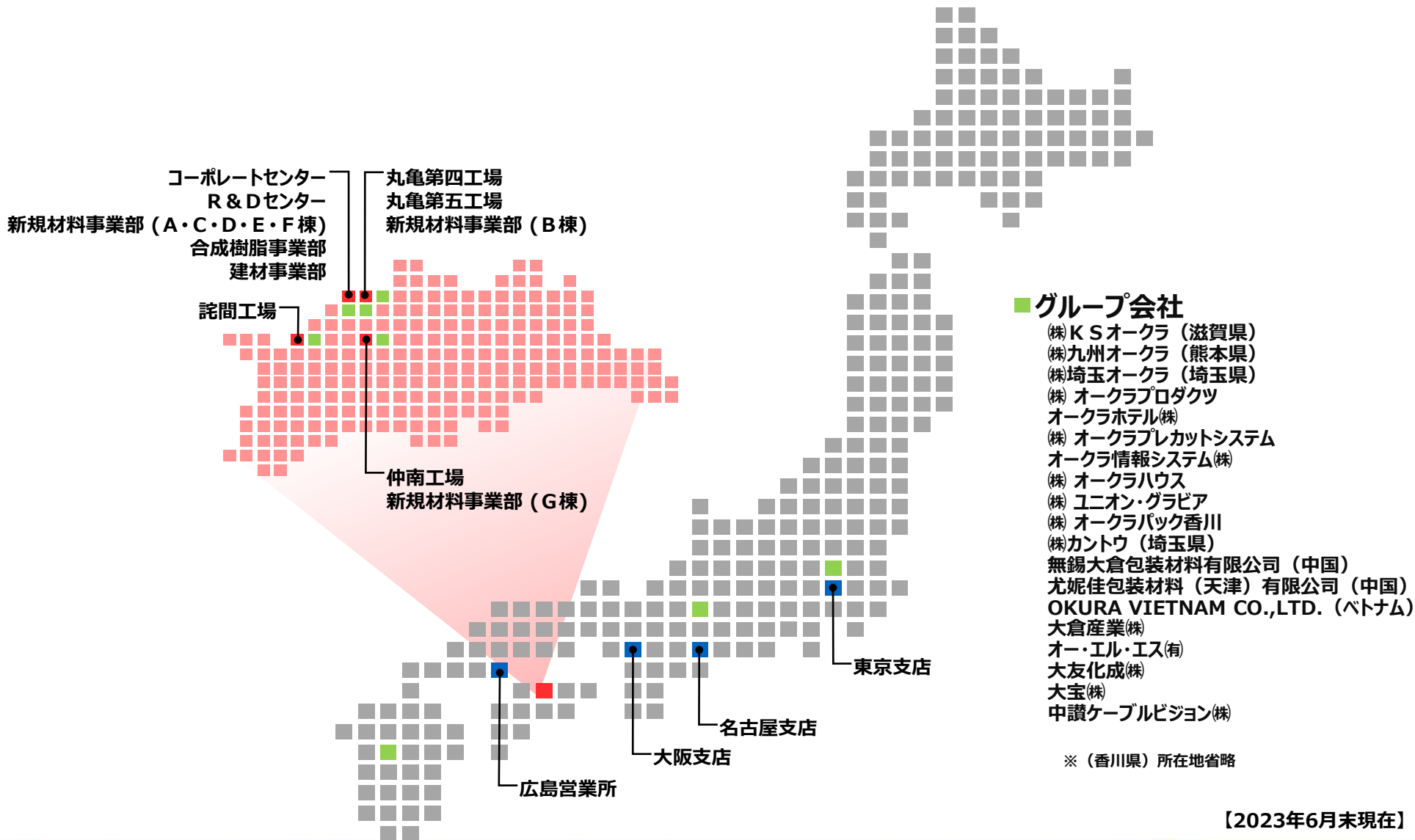
本資料に掲載されている業績予想・事業計画は、当社が現時点で入手可能な情報及び種々の前提に基づき作成したものであり、実際の業績等の結果は、今後生ずる様々な要因によって、予想・計画とは異なる場合がございます。

本資料は、情報提供のみを目的としたものであり、当社が発行する有価証券の売買を勧誘することを目的としたものではありません。

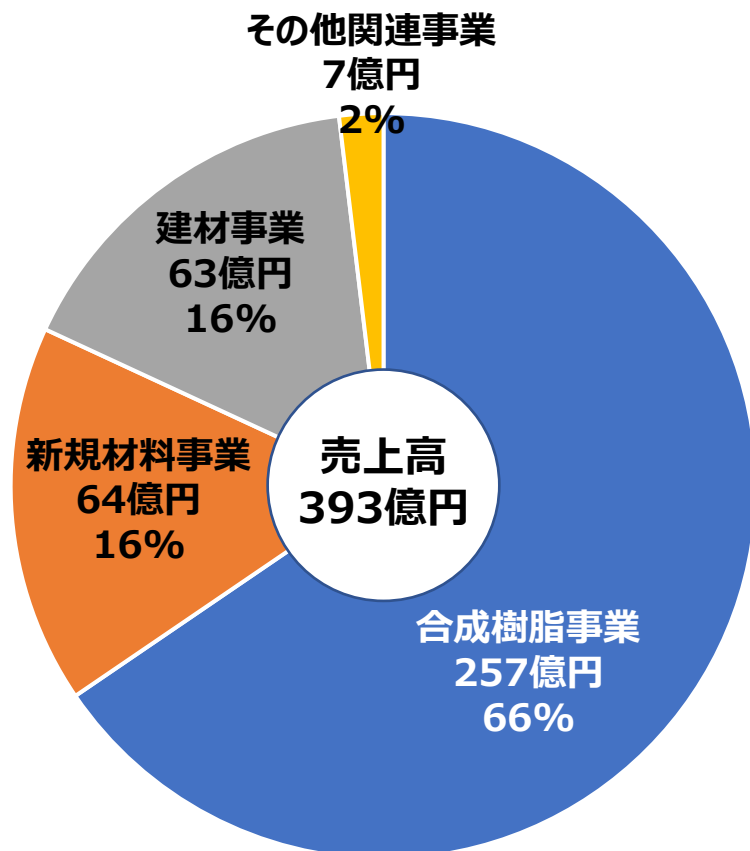
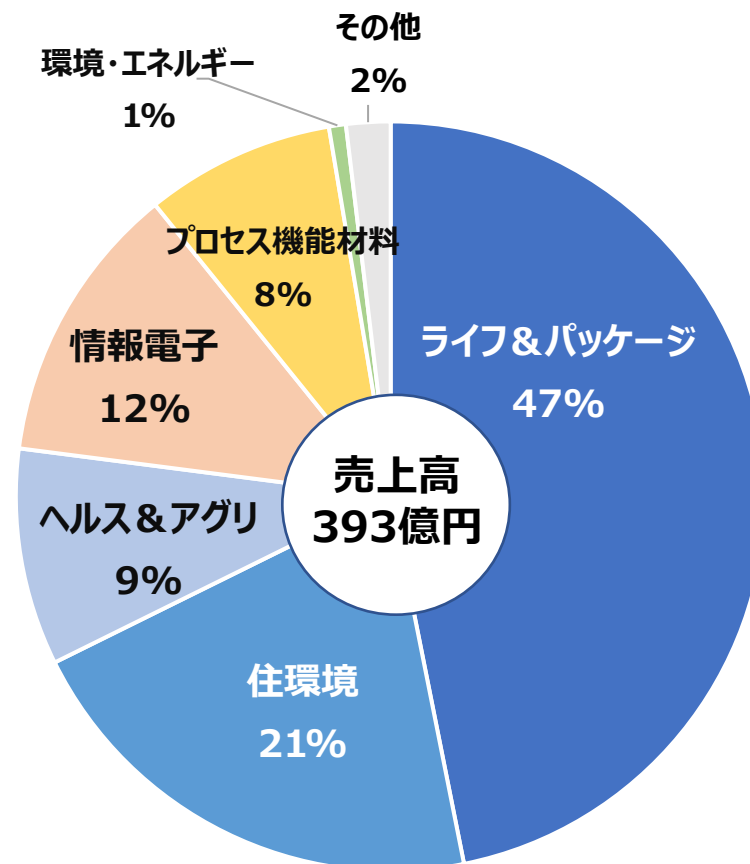
# 参考資料

5

# 当社の事業所とグループ会社



## セグメント別、領域別売上高比率

セグメント別売上高比率  
(2023年上期)領域別売上高比率  
(2023年上期)

## 事業紹介

### 【合成樹脂事業】

#### ライフ&パッケージBU シュリンクフィルム

中間物流用の重量物包装や集積包装、食品を直接包装するものなど、オリジナルのデザインや形状を生かしたまま、商品をより美しく安全に包み込む。用途に応じた独自の機能を付与すると共に、印刷などの二次加工や包装システムなどを提案。

#### 軟包材

ナイロン・ポリエステル・ポリエチレンなどのさまざまなフィルムを貼り合わせることにより、それぞれの特性を活かした機能的な複合フィルムのこと。冷凍食品の包装やIC基盤の保護用フィルム、詰め替え用のスパウト付きラミネート袋など、身近なところから最先端の電子材料にまで幅広く提供。

#### リキッドパック

液体包装容器の総称であり、段ボール箱内で使用されるバッグインボックスとドラム缶内で使用されるバッグインドラムに大別される。醤油などの食料品や化学薬品などの液体輸送の合理化に寄与。

#### 【用途例】

乳酸菌飲料集積用、カップ麺、酒パック等の包装フィルム、食品トレイ包装用バリアフィルム



#### 【用途例】

食品、洗剤、柔軟剤、シャンプー、ペットフード、お菓子等



#### 【用途例】

ミネラルウォーター、油脂加工製品、調味液（醤油、ソース等）、液体肥料、液体洗剤、接着剤





## 事業紹介

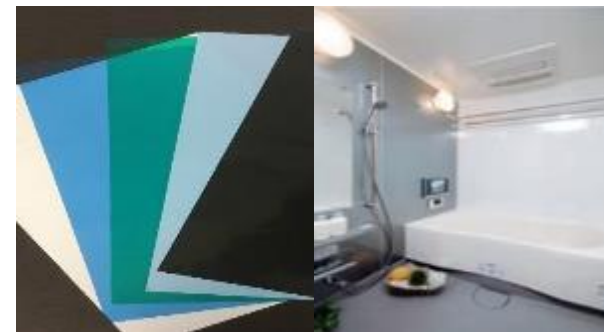
### 【合成樹脂事業】

#### プロセスマテリアルBU

電子・エネルギー・住宅・メディカルなど様々な分野の主材や基材を提供。液晶パネルに使用される位相差フィルムの保護用フィルムなど、独自の樹脂ブレンドノウハウ・高い製膜技術・徹底した品質管理で最適なソリューションを提供。

##### 【用途例】

光学、電子、電気製品、自動車、ユニットバス壁面、ドア・クローゼット・床などの建装材など



#### ベーシックマテリアルBU

規格袋・ごみ袋・包装/梱包荷材など、各種既製品はもとより、食品・衛生材料・家庭紙・日用雑貨・産業資材・医薬・洗剤・化粧品・印刷出版物など幅広い分野で製品の包装に使われているポリエチレンフィルムを提供。

##### 【用途例】

規格袋、日用品、食品用パッケージフィルム、衛生材料用フィルム



#### アグリマテリアルBU

農業用の機能性フィルムであり、全国の農家から親しまれている製品。農作業の省力化と作物の収穫増のために、保温・地温上昇抑制・害虫忌避・抗菌・生分解といったさまざまな機能を持つ製品をラインアップ。

##### 【用途例】

農業用フィルム、肥料の保存



## 事業紹介

### 【新規材料事業】

#### 機能材料BU

##### TPEチーム（ウレタンフィルム）

機械的・化学的・電氣的等著しい機能を持つウレタンやフッ素系等の単層、多層フィルムをメディカル分野や自動車部品メーカー等に提供。

【用途例】  
創傷用被覆保護ドレッシング  
プリント接着用シート  
印刷転写用シート  
ヘッドレスト  
ペイントプロテクションフィルム



##### BLTチーム（シームレスベルト・樹脂被覆ローラ）

プリンター等の画像情報機器に必要な電子機能を持つベルトやチューブをプリンター・複写機メーカーに提供。

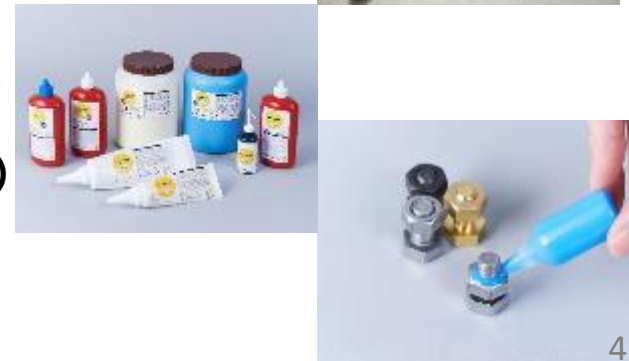
【製品種類】  
LBP用中間転写ベルト  
クリーニングローラ  
転写ローラ



##### ADHチーム（アクリル接着剤）

3タイプの硬化機構の無溶剤型アクリル接着剤を車輛・電気・鋼板・鋳型模型からゴルフクラブまで幅広い市場に提供。

【用途例】  
モーターマグネット(電気自動車部品)  
塗装鋼板  
ゴルフクラブ  
鋳型模型



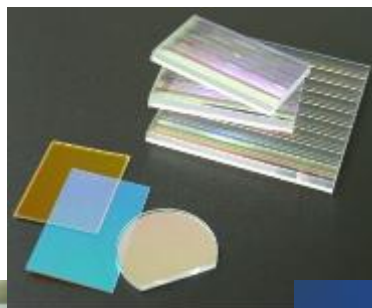
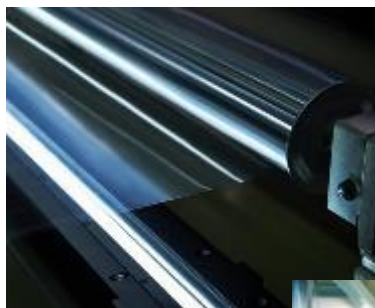
## 事業紹介

### 【新規材料事業】

#### 電子材料BU（加工）、光学材料BU（製膜延伸）

#### MNTチーム、KEチーム、PLMチーム、CTチーム、MCSTRチーム

大型から中小型サイズの液晶ディスプレイを始め、タッチパネルや液晶プロジェクター等、電子表示体のキーマテリアルとなる各種光学機能性フィルムをFPDメーカー等に提供。



## 事業紹介

### 【建材事業】

#### 木質ボード事業：パーティクルボード（素板）

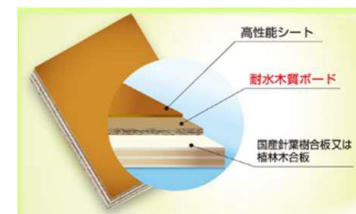
木質廃材を細かくしたチップに接着剤などを混ぜた原料を高温でプレスし固めたパーティクルボード。木質廃材を焼却せず製品としてリサイクルしており、二酸化炭素の排出を抑制し、地球温暖化の防止に寄与。



#### 土木・建設資材事業：環境貢献型枠（木守®）

国産針葉樹合板又は植林木合板に、平滑性に優れた耐水木質ボードを練り合わせ、表面に高性能シートをラミネートしたコンクリート型枠用合板。

ラワン型枠用合板と比較しても強度、耐久性など同等の品質、性能をもっている。



#### 住宅部材事業：省施工構造断熱パネル

構造用耐力面材と断熱材などが全てセットになっている。

パネル施工と同時に断熱工事が完了するため、日数の短縮、職人不足や大工の労力軽減に繋がる。



#### 建築・土地造成事業：株式会社オークラハウス

香川県丸亀市に本社があり、県内の新築、リフォームを手掛る。エネルギー収支ゼロを目指したゼロ・エネルギー住宅や国土交通省が定めた耐震性能最高等級「耐震等級3」相当で建てるなど、快適に安心して永く住んでもらう住宅を提供。



#### 木材加工事業：株式会社オークラプレカットシステム

香川県丸亀市に本社があり、木造建屋宅用構造材加工（プレカット加工）及び木造建屋用資材（建築金物・基礎素材等）の仕入販売を行っている。よりよい家を作るために、数々の建築データを基に、安全に現場での作業を迅速に行えるプレカットされた木材を、日々つくり続けている。



## 事業紹介

### 【その他関連事業】

#### ホテル事業：オークラホテル株式会社

香川県丸亀市に本社があり、オークラホテル丸亀を営業。  
オークラホテル丸亀は瀬戸内海を一望する最高のロケーションで  
ビジネスや観光の拠点に便利な立地。



#### 情報処理事業：オークラ情報システム株式会社

香川県丸亀市に本社があり、ソフトウェア開発やコンピュータシステムの運用、保守パッケージソフトの製造・販売、コンピュータ機器販売を手掛けている。ニーズを拾い上げ、形にするまでトータルでサポート。



## 当社の強み

# さまざまな分野・業界への 製品対応力

様々な業界のお客様とのお取引により  
多様化するニーズにマッチした製品を  
高い技術力を生かし供給し続けています。



## 当社の強み

### 材料設計開発

ポリマーブレンドアロイ  
有機無機ハイブリッド  
重合、多層化



### 加工技術

製膜、延伸、塗工、印刷、  
貼合、加圧、抽出、+α



用途・形態・使用条件にマッチした材料と  
製造プロセスでお客様のご要求に対応

## 大倉工業の沿革 | 戦災後の混乱期からの出発

### 創業の意義 【創業者 松田 正二】

高松、倉敷飛行機勤務時に終戦を迎え、80数名の従業員の生活を守ることと、戦後社会の復興と人々の役立つ為に事業を起こす

世の為 = 社会に役立つ

人の為 = 従業員を守り、人々に役立つ

復興に不可欠な住宅とその材料販売で創業



高松製材所の風景



木材市売の四国住宅の頃

1945

岡内製材所として製材・小型の復興住宅を販売

1947

四国住宅株式会社を設立 ⇒ 創立記念日

1949

高松(東浜町)にて木材市売りを開始

1951

四国実業株式会社に商号変更  
倉敷ビニロンを発売

1952

丸亀(城西町)にて木材市売りを開始

1955

ポリエチレン加工に着目し製造装置を購入



## 大倉工業の沿革 | 第一期【黎明】偉大な歩み

### 国内に原料メーカーが無い中で、ポリエチレンフィルムの将来性に着目

#### 当該事業の開始を機に社名(商号)変更

長年勤務しお世話になった倉敷紡績と大原社長から一字ずつ戴く

倉敷紡績 社長

**大**原 総一郎氏

**倉**敷紡績株式会社



1955 【全体】大倉工業株式会社に商号変更

1956 【合成】ポリエチレンフィルム本格生産(港町)

1959 【合成】東京工場操業開始  
その後、大阪工場、福岡工場を立て続けに建設

1962 【全体】大阪証券取引所第2部市場に株式上場  
【合成】本社工場操業開始  
【建材】ラワン合板事業に進出

1964 【合成】岡山工場、熊本工場、静岡工場を建設  
【建材】プリント合板製造開始

1967 【合成】埼玉工場操業開始



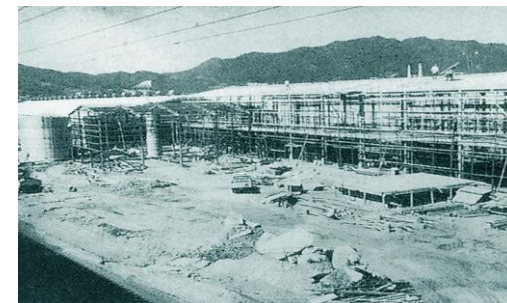
高松本社ビル



本社工場構内

## 大倉工業の沿革 | 事業の拡大

1968	【建材】 詫間工場操業開始、【他】 冷凍倉庫事業開始
1970	【全体】 東京・大阪両証券取引所第1部市場に株式上場
1971	【建材】 パーティクルボード製造開始
1972	【全体】 本社を香川県丸亀市に移転
1973	【他】 四国初のマンション(大倉マンション)建設 「オークラホテル高松」をオープン
1977	【合成】 丸亀第四工場操業開始
1987	新規材料事業部を新設
1988	【他】 「オークラホテル丸亀」がオープン
1992	オークラ情報システム(株)設立 【合成】 製版会社(株)ユニオングラビア設立 丸亀第五工場操業開始
1995	中国に「無錫大倉包装材料有限公司」を設立 【合成】 仲南工場操業開始
1996	【建材】 詫間工場で爆発事故



建設中の詫間工場  
パーティクルボードライン



オークラホテル丸亀



新規材料事業部(A棟)

## 大倉工業の沿革 | 新たな事業で拡大

### 液晶ディスプレイ用光学フィルムの事業拡大

2000 【新規】 光学フィルム工場C棟操業開始  
偏光板事業「オー・エル・エス(有)」を設立

2001 【合成】 福岡・熊本の2工場を統合し九州工場操業開始

2004 【新規】 光学フィルム工場D棟操業開始  
【合成】 「(株)九州オークラ」を設立

2006 【合成】 「(株)OKプロダクツ岡山」、  
「(株)オークラプロダクツ香川」を設立

2007 R&Dセンターを新設  
【合成】 「(株)関西オークラ」、「(株)関東オークラ」を設立

2009 【他】 「(株)オークラプレカットシステム」を設立



新規材料事業部(C棟)



新規材料事業部(D棟)

## 大倉工業の沿革 | 技術優位な企業集団を目指して

### 経営品質を高め、技術優位な企業へ

### 経営基盤を強化し、要素技術を進化させる

2012	【合成】「尤妮佳包装材料（天津）有限公司」を設立 【建材】パーティクルボードJIS認証取り消し
2013	第四次中期経営計画スタート JIS認定再取得
2014	【新規】仲南G棟操業開始 オー・エル・エス新ライン増設 【合成】関西オークラ新工場(第3工場)操業開始
2016	第五次中期経営計画スタート 監査等委員会設置会社に移行
2017	会社創立70周年
2018	代表取締役交代
2019	【合成】「(株)埼玉オークラ」を設立
2022	【合成】「(株)KSオークラ」を設立
2023	【新規】「OKURA VIETNAM CO.,LTD.」を設立



新規材料事業部(仲南G棟)  
10.5世代パネル対応の  
最新工場



新規材料事業部「OKURA VIETNAM CO.,LTD.」  
新工場イメージ図

## 2023年12月期 第2四半期 決算説明資料

2023年8月24日  
大倉工業株式会社



# END